

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	国立大学法人における先端研究の推進			担当部局庁	研究振興局	作成責任者			
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	大学研究基盤整備課	大学研究基盤整備課長 黒沼 一郎			
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画 (令和3年3月26日閣議決定)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界の学術研究を先導することを目的とした先端的な学術研究の大型プロジェクトを戦略的に推進し、もって我が国の学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図る。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	「国立大学法人及び大学共同利用機関法人が実施する研究拠点プロジェクトにおいて、世界の学術研究を先導することを目的として実施する先端的な学術研究の大型プロジェクトのうち、大規模な国際共同プロジェクトとして進められるもの」について、これらのプロジェクトを戦略的・計画的に推進するために必要な経費を補助する。(補助率:定額)								
実施方法	補助								
予算額・執行額(単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	10,593	10,170	10,170	10,170	11,581		
		補正予算	-	1,882	-	-	-		
		前年度から繰越し	55	-	1,882	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	▲ 1,882	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		10,648	10,170	12,052	10,170	11,581		
	執行額		10,648	10,170	12,052	-		-	
	執行率 (%)		100%	100%	100%	-		-	
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		101%	84%	119%	-		-	
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	国立大学法人先端研究推進費補助金	10,170	11,581	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。					
	計	10,170	11,581						
活動内容(アクティビティ)	国立大学法人及び大学共同利用機関法人が実施する研究プロジェクトのうち、世界の学術研究を先導することを目的とした先端的な学術研究の大型プロジェクトについて、研究成果の目標設定や研究期間の設定など、同プロジェクトの進捗状況を踏まえ、国が一定の関与を持って安定的・継続的に推進するために必要な経費を補助する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	先端的な学術研究の大型プロジェクトについて、安定的かつ継続的に推進する。	本事業により推進する大型プロジェクト数	活動実績	プロジェクト数	4	5	5	-	-
			当初見込み	プロジェクト数	4	4	5	3	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	プロジェクトにより規模が異なるため、単純に単位当たりのコストを記載することはなじまない。			単位当たりコスト	-	-	-	-	
				計算式	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
	国内外の優れた研究者を結集し国際的な研究拠点を形成するとともに、研究活動の共通基盤を提供する。	大型プロジェクトに参画している共同利用・共同研究者数に占める外国人研究者数の割合	成果実績	%	59	25	39	2年度	-年度
			目標値	%	60	60	60	-	-
			達成度	%	98	42	65	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	文部科学省調べ								

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化		
	政策評価	施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20220829-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf
				該当箇所	達成目標2
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-	-
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:			-	-	
該当箇所			-	-	

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	大規模研究プロジェクトの推進により、ノーベル賞受賞につながる研究成果の創出など、研究水準の向上が期待できるとともに、実験の過程で行う最先端技術の開発などを通して産業界と連携することによって、イノベーションの創出が期待できることから、本事業の目的は国民や社会のニーズを反映していると言える。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は我が国の学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るものであることから、国が一定の関与を持って該当プロジェクトを推進する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は第6期科学技術・イノベーション基本計画において「世界の学術フロンティアを先導する大型プロジェクトや先端的な大型施設・設備等の整備・活用を推進する。」とされており、政策の優先度が高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本事業の対象となりうるプロジェクトについては、科学技術・学術審議会等における専門的見地からの検討を行っており、その妥当性を確保している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、国が推進すべき大規模研究プロジェクトの実施に係る経費を負担することを前提としており、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	経費の執行に関しては、規程等で効率的な執行に努めるよう求めるほか、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・使途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っており、中間段階への支出は合理的なものとなっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	経費の執行に関しては、規程等で効率的な執行に努めるよう求めるほか、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・使途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	

	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	経費の執行に関しては、規程等で効率的な執行に努めるよう求めるほか、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・用途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性についての確認を行い、実施主体からの支出に当たっては、複数社からの見積書を確認するなど、競争性・透明性を確保し、合理的な支出を行うよう工夫が行われている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	本事業は、世界の学術研究を先導することを目的とした先端的な学術研究の大型プロジェクトを戦略的に推進し、もって我が国の学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るためのものである。中長期的な視点にたつて研究をすすめていくため、必ずしも成果が短期間のうちに目にみえるような形で現れてくるとは限らないことから、必要に応じ評価を実施し、成果の把握に努めている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業は、研究成果の目標設定や研究期間の設定など、国が一定の関与を持ってプロジェクトを推進しているため、効果的に事業を実施できている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は見込みを達成しており、事業の目的達成に資する取組が、着実に推進している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	学術研究の大型プロジェクトの戦略的、計画的な推進を図ることを目的とした本事業は、国内外の優れた研究者に研究活動の共通基盤を提供するなど、我が国全体の共同利用・共同研究体制の構築に貢献しており、十分に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	本事業の実施に当たっては、経費の執行や実施主体からの支出等に際し、競争性や透明性を確保するなど、効果的かつ効率的に事業を実施しており、また、第6期科学技術・イノベーション基本計画に基礎研究・学術研究を振興していくことが明記されている等、当該事業の必要性は高い。特に、大学、大学共同利用機関が実施する学術研究の大型プロジェクトを戦略的、計画的に推進していくためには、引き続き国による支援が必要である。	
	改善の方向性	経費の執行に関しては、事業年度毎に提出される実績報告書等において、支出先・用途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行って事業の適正な実施に努める。	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
の事業内部改善内容	この事業は、成果目標・指標や活動指標は設定されているが、事業の成果についてより適切に測るためにより一層の工夫が必要である。		

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改年
善度
を内
検に

より適切に本事業の成果を測ることが可能となるよう、活動指標及び成果指標、並びに水準の妥当性を判断できる目標値について改善の検討を行う。

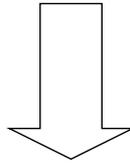
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	新27-0021			
平成28年度	27.0149			
平成29年度	155			
平成30年度	156			
令和元年度	文部科学省 - 0148			
令和2年度	文部科学省 0153			
令和3年度	2021 文科 20 0165			

文 部 科 学 省
12,052.3百万円

国立大学法人及び大学共同利用機関法人が実施する世界の
学術研究を先導することを目的として実施する先端的な学術研
究の大型プロジェクトのうち、大規模な国際共同プロジェクトとし
て進められるものについて、戦略的・計画的に推進するために
必要な経費を支援。



[補助金等交付]

A. 大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構
8,758.5百万円

B. 大学共同利用機関法人
自然科学研究機構
1,411.8百万円

C. 大学共同利用機関法人
情報・システム研究機
1,882百万円

世界の学術研究を先導することを目的とした先端的な学術研
究の大型プロジェクトを推進。

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位：百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構			B.大学共同利用機関法人 自然科学研究機構		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業推進費	加速器運転に係る光熱水費、共同利用・共同研究にかかる旅費等	7,898.2	事業推進費	望遠鏡観測に係る光熱水費、保守等の運用経費、共同利用・共同研究にかかる旅費等	1,068.6
	設備備品費	機器・備品等の購入費	860.3	人件費	事業担当職員への給与等	327.5
				設備備品費	機器・備品等の購入費	15.7
	計		8,758.5	計		1,411.8
	C.大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構			D.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業推進費	SINET5からSINET6への移行経費およびSINET6の運営経費	1,882			
	計		1,882	計		0

